

V. 名古屋大学との連携による専門的な学び

第1章

名古屋大学との連携

三小田 博 昭

(1) 仮説

SSH第1期から第3期SSH研究開発の柱をなす重要なコンセプトは高大接続である。「高等学校教育改革・大学教育改革・大学入学者選抜改革が今後の日本社会を担う子どもたちを育成するための鍵となる」と高大接続改革システム会議の最終報告(平成28年3月)にもあるように、中等教育と高等教育がシームレスに接続することが重要視されている。本校は名古屋大学のキャンパス内に位置している利点を最大に活かし、名古屋大学の人的・物的リソースを最大限に活用してSSH研究開発を実践している。また名古屋大学サイドにおいても、学内に「教育基盤連携本部」を設置し、高校と大学との教育における円滑な接続を図る観点から入試、教育部分における「高大連携」の企画・立案を行うとともに、各学部等が実施する活動の支援等を行っている(名古屋大学教育基盤連携本部HPより)。加えて附属学校内に、「高大接続研究センター」を教育学部と協同で設置し大学教員が常駐して高大接続に関して最先端での研究を行っている。大学教員から講義を直接受けることや、学校から離れ、大学のキャンパスで実際に観察・実験を体験することにより、生徒の興味・関心を深化させていくことができると仮定して、名古屋大学と連携したさまざまな取組を実践している。

(2) 実践

- ・中津川プロジェクト
日時：2019年8月6日(火)～8月8日(木)
場所：岐阜県恵那市
奥矢作レクリエーションセンター
- ・基礎セミナー
日時：名古屋大学初年次教育の学事歴による
場所：名古屋大学東山キャンパス教養教育棟及び、
鶴舞キャンパス
- ・生物臨海実習
日時：2019年7月29日(月)～30日(火)
場所：名古屋大学大学院理学研究科附属菅島臨海実験所(三重県鳥羽市菅島町)

- ・附属農場講演会・見学会

日時：2019年10月26日(土)

場所：名古屋大学東郷フィールド

- ・名古屋大学 未来材料・システム研究所

(第4回エネルギー技術アカデミー)

日時：2019年12月18日(水)

場所：本校中学棟屋上

(3) 評価

- 附属高校生を受け入れた名古屋大学教員の声(基礎セミナー授業者)

(高校生と大学生と一緒に授業を受けることについて)

附属学校の生徒が非常に積極的であったり、知識が豊富であったりする場合、学生は生徒に負けじと頑張るので、相乗効果が生まれる。生徒が3年生の場合、現役受験生と受験が終わったばかりの先輩という関係であるため、より親近感が生まれるように見える。生徒によるので一概には言えないが、2年生よりも3年生が加わる年のほうが、グループワークの完成度が高いように思われる。(文責 三小田博昭)